



部会だより

コロイドおよび界面化学部会

境界と融合の街—神戸によろこそ 第 68 回コロイドおよび界面化学討論会へのお誘い

はじめに

第 68 回コロイドおよび界面化学討論会は平成 29 年 9 月 6 日(水)~8 日(金)にわたって神戸大学鶴甲キャンパスを主会場として開催されることになりました。会場となる神戸大学の一員として、部会員をはじめとする多くの参加者に対し、歓迎の意を表したいと思ひます。

主題:コロイド・界面とそのダイナミクス

神戸は六甲山と大阪湾にはさまれた狭い平野部にありながら、大輪田泊を発端とする 1300 年の歴史をもつ港町として発展してきました。地政学的にも京都・大阪に近く、東西 30 km, 南北わずか 5 km の平野部に多くの急峻な河川があり、新鮮な軟水が灘の名水として多くの酒蔵に供給され、寄港した船員の喉を潤してきたという歴史を持ちます。そして古来様々な諸国文化が流入してきた港街で、独特の文化が生まれ数多くの文化・製品の発祥の地として知られるに至っています。1995 年に発生した阪神・淡路大震災は都市インフラが高度に発展した都市部を襲った初めての大自然災害となりましたが、それから復興した経験は自然災害の多い我が国において、情報・医療・都市環境など自然系・社会系の枠を越えた多くの学際的取り組みにつながっており、地政学的にも社会環境においても境界に存在する神戸において、様々な文化が融合し、新しいアイデアが創造されてきました。

コロイド・界面の学理が相の境界における物質の構造・物性や挙動を解明し、さらに高機能材料を創成するという視点の上に立っているとすれば、「何でも取り入れて自らのものにしていく」ダイナミックな神戸の気質はこの分野の研究においてもどこかで活かされていると思われまひます。今回の討論会において共催させていただく本学工学研究科界面科学研究センターは、2010 年に発足以来、数多くの研究プロジェクトを進めて参りましたが、今回、討論会との共催によって、より部会との協力関係を構築していきたいと考えております。

討論会の概要

今回主会場となる鶴甲キャンパスでは一般の研究発表とシンポジウムからなるシンプルな討論会となり、議論に集中していただけるプログラムになります。一般シンポジウムは 7 件の話題が提供されます。少しでも数多くの講演を聴講できるよう、できる限りプログラムの配置を工夫し、コンパクトな会場設定をさせていただき所存です。

総合講演と Lectureship Award (LA) 受賞講演は 1935 年に建設された文化庁登録有形文化財でもある神戸大学出光佐三



鶴甲キャンパス



出光佐三記念六甲台講堂

記念六甲台講堂において行われまひます。

LA 受賞講演についてはイタリアフローレンス大学教授の Picro Baglioni 先生と中国科学院教授の Junbai Li 先生をお迎えして、講演される予定です。この講堂は多少標高の高い六甲台キャンパスに立地しています。その間、180 段あまりの階段があります。是非、本学学生に混じって、軽いハイクを楽しんでいただければと思ひます。また、懇親会場は日没とともに神戸の夜景を楽しんでいただけるよう総合講演会場に隣接するアカデミア館を会場としております。

おわりに

この討論会は残暑厳しい 9 月上旬に開催されますが、できる限り快適な会場の環境を整えたいと考えております。無論、神戸には数多くの観光資源があることは、私から説明するまでもないでしょう。今年の初秋には、是非神戸にお運びいただき、有意義な出会いの場とされまひすことを心より祈念して参ります。

〔第 68 回実行委員長 水畑 穂
(神戸大学大学院工学研究科)〕

© 2017 The Chemical Society of Japan